第171号(2000年8月)

調査と情報

編集・発行
㈱農林中金総合研究所基礎研究部
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3
TEL. 03-3243-7331
FAX. 03-3246-1984
E-mail：kaneko@nochuri.co.jp

農協は女性にとってのベストパートナーになれるか

今年開催される第二二回ＪＡ全国大会議案の中には、農協運営への女性参画の促進と、それを具体化するために平成一五年度を目途とする女性の正組合員比率や総代比率、役員数の数値目標が明記された。

農協界は「一戸一組合員制」という組織原則のもとで、生活の主たる担い手であり、農業生産においても常に重要な役割を担ってきた女性の加入を長期にわたって拒んできた。そのために女性たちは別途組織化した女性部で、生活上の問題に取り組むと同時に、農協に対しても女性部というバイパスを通した意思反映に努めてきた。しかし、それは経済性・効率化重視の脈絡の中で軽視され、多くの農協はこうした声を「遠くで鳴る鐘」としか受け止めず、生活問題は女性部の中に押し込められてきた。その意味では今回の数値目標の設定は一定の評価ができよう。

しかし、この間にも、厳しい農業経営や暮らしを何とかしたいと模索を続け、女性の社会的な地位向上の風を受けとめた農家女性の中から、「農協を通した問題解決」を待つのではなく、自ら行動し現状を打開しようとする女性たちが現れてきた。その一つが直売所や加工事業等を主体的に運営管理する女性たちで、いわゆる「女性起業」と言われるものであるが、今後は、今、全国展開されている高齢者福祉活動の中からも、より主体的、専門的に福祉事業に取り組むグループが生まれてくることが想定される。こうした自ら出資し、働き、運営管理する女性たちの活動は協同組合そのものであり、その意味で女性による小さな協同組合づくりが広がっているということができよう。

とはいえ、こうした動きはＪＡ女性部内部にも起こっているものの、むしろ、その外での実践である場合が少なくないのである。それは、自分たちの意志と責任に基づく主体的な活動を起こすには、男性主導で経済性重視の農協の枠組みが足かせになるし、農協運営への参画を求めても「時間もかかるし、実りも期待できない」ので、自分たちで自己決定できる組織と活動を創る方向を選択したからだと言える。こうして力をつけてきた女性たちにとって農協運営への女性参画は自分たちには関係のない「遠くで鳴る鐘の音」に聞こえるのではなかろうか。

従って、女性の参画を促進するのは容易ではないし、まして「数値目標」を掲げ、「女性参画の機会を与えてやる」という従来型の発想では難しい。今、必要なことは、女性や生活軽視の発想を転換し、これまでの経済性重視の農協経営とは別の回路を作り、女性にとって参画に値する組織になることであろう。女性たちは農協が「女性にとってのベストパートナー」（ＪＡ大会議案より）かどうか冷静な目で見つめているのである。

（副主任研究員　根岸久子）

今月のテーマ：男女共同参画社会の実現を目指して

農協は女性にとってのベストパートナーになれるか……1
2000年会議と日本の農業女性……2
私の男女共同参画への道……3～4
最近のベトナム農村事情……5～6
森林・林業に配慮した木の家づくり活動…7～8
ぶっくレビュー『女の直感が男社会を覆す』…9
あぜみち……10
虹のかけ橋……11
統計の眼「世界的に増加するFCSの認証森林」……12
編集後記……12